

山下電装 新型太陽電池セル対応 性能評価用パルス点灯方式 シミュレーター



【立川】山下電装（東京都八王子市、山下昌彦社長、042・650・7121）は、太陽電池セルの性能評価用シミュレーター「可変型ロングパルスソーラーシミュレ

ター」写真」を完成した。光源のキセノンランプを連続点灯からパルス点灯方式にし、電源部の改良により点灯時間を0・2秒から1秒の間で可変にした。このため従

来、0・1秒の短いパルスでは評価できなかった薄膜系や色素増感など新型の太陽電池セルを正確に測定でき

る。6彩の太陽電池セルに光を照射し、オプシヨンの出力特性測定装置でセルの発電効率を評価してセルを仕分けできる。光の照度は2段階か3段階で調整する。独自開発の減光方式の採用により、スペクトル分布をほ

ぼ一定のまま減光でき正確な測定を実現した。24時間稼働の生産ラインに使用すれば待機電力を減らして消費電力を削減できるほか、ランプ寿命も延ばせるためランニング費用を抑えられる。価格は本体と電源のセットで約750万円。太陽電池メーカーの製造ライン、研究開発機関に提案し、年間10台の販売を目指す。